

たはら歴史探訪クラブ

その6

吉胡貝塚(二) 国営発掘第一号

法隆寺金堂の火災をきっかけに、昭和25年5月30日、新たに文化財保護法が公布されました。その中に学術上の価値が特に高く、国において調査すべきと認められる遺跡については、発掘調査ができるという規定が設けられました。そして昭和26年度に、調査すべき遺跡として吉胡貝塚ほか3か所が候補となりました。

この調査は、国にとって初めての試みでした。文化財保護委員会の齋藤忠氏を中心に慎重に進められ、広く専門の学者に呼びかけられ、明治大学教授後藤守一・東京大学講師山内清男・南山大学教授中山英司・名古屋大学助教授澄田正一・地元の久永春男・国立博物館八幡一郎氏らが参加し、当時考えうる最高のスタッフでのぞきました。この時補助員として参加した坪井清足・榎崎彰一・大参義一・岡本勇・吉崎昌一・稲垣晋也・紅村弘氏ら若き精鋭たちも、現在では考古学の権威となっています。

調査は3月22日から4月9日まで実施され、発掘の本部および宿舎は地元の東光寺におかれまし

日本の文化財保護の記念すべき第一歩が、この田原町で始まったことは大変名譽なことです。

た。調査の学問的ねらいは「縄文時代から弥生時代への移り変わりを明らかにする」ことでした。戦前までは、日本民族(優秀な弥生人)が九州に天孫降臨し、先住民族(縄文人)は西から次第に駆逐されたため、西ほど縄文文化は古く、東に行くほど新しい、特に東北地方は鎌倉時代まで縄文文化が残っていた、と学者ですら本気で考えていました。つまり、神話に支えられた歴史観が信じられていたのです(この歴史観は、日本の参戦を正当化するために利用されました)。吉胡貝塚の調査は、発掘という科学的な方法によって、日本人の起源にかかわる縄文時代から弥生時代への移り変わりを解明し、戦時中の誤った歴史観をあらため、真実の歴史を発見するという、国民の期待がかけられていたのでしょうか。それは当時の新聞に連日報道されたことからわかります。4月9日付け中部日本新聞の社説には『吉胡遺跡発掘の成果と今後』と題して、調査成果のほか文化財保護の必要性を強調した文が寄せられています。



●19号人骨。右腕には1個、左腕には7個の貝輪がはめられ、顔付近に朱が付着し、顔を手で隠している状態で出土したため、「若い女性に違いない」と学生たちは歓声をあげた。しかし、人骨担当の中山の鑑定は「最低子供を3人生んでいる熟女」だった。

▽田原町博物館 ☎22局1720

広報たはらは、森林資源保護のため再生紙(古紙100%)を使用しています。

今月の表紙

その気品ある姿と甘い香りにより、世界中で愛されている白ゆり。「純潔」や「処女性」の象徴でもあることから、今やウェディング・ブーケには欠かせない存在となっています。ところで、こうしたセレモニー用の白ゆりにはおしべがない場合があります。これは花粉によって、純白の花びらが汚れないように取ってしまふからです。人間が勝手に作った「純潔」というイメージのために、花としての「純潔」を奪われる白ゆりにとつては、迷惑な話しかも。

蛇足ですが、かつてマリリン・モンローが愛用したことで有名な某香水には、ゆりの香りがブレンドされているのをご存じですか? 清楚とは裏腹なイメージのような気もしますが、これも「美」の持つミステリアスな一面かもしれませんね。

【人口と世帯数】

総人口	36,855人
男性	18,839人
女性	18,016人
世帯数	11,494世帯
出生	34人
死亡	19人
転入	85人
転出	84人
増減	16人

(平成13年8月1日現在・増減は7月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)